



NEWSLETTER FOR THE JAPANESE  
ASSOCIATION FOR DENTAL RESEARCH  
(JADR)

# 国際歯科研究学会日本部会 会 報

1982—III

12月

## I 1982年第3回理事会

日 時：12月1日(水) 12:30 am

場 所：ホテル ニューオータニ「有明の間」

出席者：森 会長，三浦副会長，田熊前期会長，河村，小西各理事，須賀事務局長  
(討議内容については総会の項参照)

## II IADR本部会長との会談

今回，特別講演者として来日されたIADR本部会長A. H. Melcher 教授の要請により，同教授とJADRの理事会のメンバーとの会談が理事会に引き続きホテル ニューオータニの有明の間で行われた。

本部会長よりIADRが現在かかえている諸問題，将来の構想についての説明があり，それに対するJADRからの協力の要請があった。一方，JADRの役員からもJADRの将来の構想とIADR本部に対する希望事項の説明があった。以後，両者の間で活発な意見の交換があり，今後共，両者の間での協力関係を維持するための基本的な方針について検討が行われ2時間半にわたる会談を終えた。

このような会談はJADR発足以来，はじめてのことであり，今後も時に応じて持たれることが期待される。

その後，本部会長Melcher 教授夫妻，特別講演者Moffett 教授，シドニーにおけるICOB 準備委員長Knox 博士を混えてJADR役員による懇親会がホテルニューオータニの清泉亭に

において開催された。

### Ⅲ 第30回JADR総会

12月2日(木)と3日(金)の2日間にわたり、JADRの第30回総会が三浦不二夫副会長を chairman とする準備委員会により東京医科歯科大学の5号館において開催された。

出題数は79で、2会場に分かれて行われた。出席は325名であった。

尚、今回は第30回総会を記念して下記の2つの特別講演が行われた。

(1) " The Clinical Significance of Periosteal Biology "

Dr. Benjamin Moffett

Department of Orthodontics, Faculty of Dentistry, Washington University  
U. S. A.

(座長：三浦不二夫副会長)

(2) " Regeneration of Periodontium : Biological Processes in Development of  
Oriented Fibre Systems

Dr. Antony H. Melcher

MRC Group in Periodontal Physiology, University of Tronto, CANADA

(座長：森 政 和会長)

いずれも、歯周組織にかゝる基礎学的研究であったが、臨床上の諸問題に示唆する所が多く、更に両講師の熱心な講演態度によって多くの聴衆はそれぞれ2時間以上にわたる講演の時のたつのを忘れるほどであった。

講演終了後、座長より演者に対して感謝状(プラーク)が贈られた。

### Ⅳ 総会(Business session)

第1日(12月2日)の15:10から15:50にかけて前夜の理事会での立案に基き、下記の如き報告と討議が行われた(司会：小 椋 理事)

#### 1. 報告事項

##### 1) 庶務報告(須賀事務局長)

##### ① 1982年に開かれた理事会

第1回 3月30日 日本歯科大学

第2回 9月24日 日本歯科大学

第3回 12月 1日 ホテル ニューオータニ

② 出張

1. IADR本部理事会(ワシントン)(1月8日・9日)河村洋二郎理事
2. 第60回 IADR大会理事会(ニューオーリンズ)(3月15・16日)須賀昭一事務局長

③ 会員数(昭和57年11月末現在)

正会員	642名
名誉会員	3名
終身会員	16名
賛助会員	7名
手続中	5名

④ JADR年会費納入状況(昭和57年11月末現在)

会費全納者	564名(88%)
'81年度分まで納入	54名(8%)
'80年度分まで納入	24名(4%)

3年以上未納で自動的に退会した者：37名

⑤ Newsletter 発行について

本年度すでに第1号、第2号を発行、12月中に第3号を発行の予定

⑥ 会員名簿作製状況

現事務局長の任期満了にあたり、4年ぶりに会員名簿を作製中のむね報告。その中には新しい constitution, 付則, 歴代役員一覧, 学会開催地一覧, などを含む。

名簿作製にあたっては本年6月に全会員あてに送付した往復ハガキによるアンケート調査を基礎資料とした。たゞし解答をよせられなかった方々については入会時の記録によった。

⑦ IADR Sydney 大会(1983)について

出題用紙は本部から70部取りよせたが、11月30日現在、そのほとんどが希望により JADR 会員に発送されており、目下、遂加分の送付方を本部に対して請求している。以上の他に、直接本部に請求している会員もある筈なので、今回の学会への日本からの出題数はかなりの数にのぼる模様である。

## 2) 1982年度のJADRの会計報告

### 1982年度国際歯科研究学会日本部会(JADR)会計報告

(1981年11月1日-1982年10月31日)

収 入		支 出	
前年度よりの繰り越し金	2,362,572円	通 信 費	328,832円
会 費 収 入	1,568,000	印 刷 費	287,600
1981年度日本歯科医学会からの寄付	500,000	コ ピ ー 代	3,580
銀 行 利 息	43,125	会 合 費(理事会3回)	22,990
合 計	4,473,697	交 通 費	222,700
		文 房 具	28,725
		プ ラ ー ク(終身会員)	123,500
		IADR本部会議出張旅費補助	300,000
		第30回JADR総会準備補助金	500,000
		(小 計)	(1,827,927)
		繰り越し金	2,645,770
		合 計	4,473,697

これについて覚道教授(大阪歯大)と見明教授(東京歯大)の監査報告があり、総会の承認を得た。

### 3) 次期事務局長選挙の開票報告(須賀事務局長)

現事務局長任期満了に伴い、理事会推薦候補者として常光 旭教授(阪大・歯)をたて11月10日〆切りで全会員による選挙を行った結果、圧倒的多数で常光教授が次期事務局長に選出されたことが報告され、総会の承認を得た。同教授は1983年から1986年まで就任されることになる。

### 4) そ の 他(須賀事務局長)

- ① 1983年度本部副会長選挙にあたり、候補者として河村洋二郎理事が本部指名委員会より指名されていることの説明がありJADR会員の協力が要望された(投票〆切り：3月1日)
- ② 任期満了となる森 政和会長に対してJADRからの感謝状(プラーク)が贈られることが報告された。

## 2. 協 議 事 項

### 1) 次期新役員について

1983・1984年のJADRの役員について須賀次期会長(1981年の選挙で決定済み)

から次の如き提案があり総会の承認を得た。

President	須賀昭一 (日本歯大・病理)
Vice-President	小椋秀亮 (東京医歯大・歯・薬理)
Immediate Past-President	森政和 (大阪歯大・薬理)
Secretary-Treasurer	常光旭 (阪大・歯・予防歯科)
Councilors	田熊庄三郎 (東歯大・病理)
	三浦不二夫 (東京医歯大・歯・矯正)
	吉田定宏 (岐阜歯大・小児歯科)
	小沢英浩 (新大・歯・解剖)
	小林義典 (日本歯大・補綴)

(ConstitutionのArticle VIII, 並びにIXにより副会長は理事会の指名により, 理事は会長の指名により決定される)。

永年にわたって理事をつとめられた河村洋二郎教授には今回, 固い御意志により理事会よりひかれることになった。同教授の理事としての長い間にわたる貢献に対して深く感謝する次第である。

2) 1983年8月のIADRシドニー大会の理事会へのJADRからの代表について

先に須賀次期会長が代表の一人として出席することが決定していたが, 更に, 田熊庄三郎理事も代表としてそれに加わることになった。

3) Past-President Committeeについて

須賀事務局長よりすでにPresidentを経験された方々による一種の諮問機関としてPast-President Committeeを設立することの提案があり, 次年度の新役員により検討されることになった。

4) 窪田金次郎教授(東医歯大)より学術会議に立候補するにあたりJADRよりの推薦を希望しておられることの説明があり, 本会としても同教授を推薦することに決定した。

3. その他

1) Dr. Knox (シドニー大会ICOB準備委員長)より1983年8月にシドニーで開かれるIADR総会とICOBについての説明があり, 多数のJADR会員の出席が要望された。

2) 任期満了となる森政和会長より退任の挨拶があり, それに続いて同会長の任期中(副会長2年, 会長2年)における学会に対する貢献に感謝して須賀次期会長よりプラークが贈呈された。

3) 須賀次期会長より1983・1984年度の役員(前出)の紹介があり、次いで事務局長の任期満了による退任の挨拶と会長就任の挨拶があった。更に、小椋次期副会長と常光旭次期事務局長の就任の挨拶があった。

## V JADR 第30回総会記念式典

Business sessionに引き続きJADRの第30回総会を記念する式典が行われた

(司会：須賀事務局長)

先ず森会長の挨拶と物故会員に対する黙禱があり、次いでIADR本部会長Melcher教授から祝詞があった。それに続き、榎 恵名誉会員(JADRの創設当時10年間にわたり事務局長をつとめられ本会の基礎を作られた。又、1971年と1972年には会長をつとめられた)から本会創設当時の事情の紹介があり、更に、将来の本会のあるべき姿について示唆に富むお話があった。その後、同名誉会員に対して学会より花束が贈呈された。

18:30p.m.よりレストラン・セイন্ツにおいて懇親会が開催され、本部会長夫妻、Moffett教授、Knox博士を混え、多数のJADR会員の出席を得て、なごやかな2時間にわたる会が持たれた。尚、この席上、永年にわたって事務局の事務に協力された日本歯科大学病理学教室の教室員に対し、感謝の花束の贈呈が河村洋二郎理事により行われた。

第30回を記念して極めて内容の充実したプログラムが編成された本総会は大成功の内に終了した。これは一重にその準備にあたられた三浦不二夫副会長、小椋理事をはじめ、東京医科歯科大学矯正学教室の教室員の方々の御努力によるものである。ここに深く感謝の意を表するものである。

## VI 新しいJADR会員名簿について

総会報告の中でのべてある様に、1982年6月に行った往復ハガキによるアンケート形式の調査にもとづいて会員名簿を作製した。アンケート調査の終了後に入会された方については12月7日までに手続完了の分まで掲載してある。

この新しい会員名簿は1983年1月中旬に旧事務局より発送される。

## VII 事務局長任期満了にあたって

1979年から事務局長をお引き受けしてからすでに4年が経過し、ここにその任を終える

ことになりました。その間、会員数の急増、IADR大阪大会の開催、学会名の改称、本部事務局の機構改変に伴う事務的交渉の複雑化、などがあり、30年に及ぶJADRの歴史の上でも記録すべき4年間であったと思います。

行きとどかぬ点も多々あったこと、と思いますが、ここまでやって来ることが出来たのは学会役員の皆様の御協力、会員の皆様の御理解の賜であると思います。又、任期中、日本歯科大学当局からも様々な便宜をはかっていただきました。これらに対して厚く御礼申し上げます。更に、私事になりますが、私共の教室の多くの教室員の協力なしにはこの事務局の仕事をなしとげることは出来なかったと思います。ここに長い間にわたる彼等の協力と努力に対して心からの感謝の意を表して退任の挨拶といたします。

須賀 昭一

#### 新事務局

1983年1月よりの新事務局長、並びに事務局のアドレスは下記のとおり

事務局長：常光 旭 教授
住 所：530 大阪市北区中之島4-3-48 大阪大学歯学部 予防歯科学講座 Tel. 06-444-1421 (内線230)
銀行口座：住友銀行中之島支店 普通預金 311629 国際歯科研究学会日本部会 事務局長 常光 旭

---

Japanese Association for Dental Research (JADR)

(国際歯科研究学会日本部会)事務局

〒102 東京都千代田区富士見 1-9-20

日本歯科大学歯学部 病理学教室内

電話 (03) 261-8311 内線 291, 292